

令和7年度ひみ未来づくりミーティング議事録（碁石地区）

日時 2025/10/2 19:00～
 場所 碁石公民館
 出席者 19名
 市長、政策統括監、総務部長、企画政策部長、市民部長、産業振興部長、建設部長、教育次長、防災・危機管理監、消防管理監、地域振興課、地域担当職員

進行 19:00～19:03 市長あいさつ
 19:03～19:05 出席者紹介
 19:05～19:35 市政の概要について（市長説明）
 19:35～20:22 意見交換
 20:22～20:25 閉会あいさつ 市長、地区代表

	質問の内容	回答
1	<p>■碁石ケ峰について 今回の国勢調査では懸札地区は50人となっており、1/3が80歳以上。日常のコミュニケーションが難しい。小さな拠点、居場所づくりをしたい。放棄農地等の情報を集め、趣味などで活用してもらえるよう広く募集したい。碁石ケ峰は星空の観察にも向いていたが、整備が進んでいない。羽咋市と共同して、整備や星空の観察会などをしてはどうか。</p>	<p>■企画政策部長 碁石ケ峰という貴重な財産がある。地域の方がどうしていきたいかという意見もいただきながら、今後の市の支援の方策と一緒に考えてまいりたい。</p> <p>■市長 碁石ケ峰の景観が悪いという話は中能登町からも意見いただいている。土地の所有者の問題もあるため、簡単にはいかないが検討してまいりたい。</p>
2	<p>■碁石地区のコミュニティバス運行について 民間事業者が赤字だったのに地元で行ってどうなるかと思っていた。乗車率がある程度無いと市の助成を行って貰えない。乗車収入が収益に対して40%以上無いと助成金をもらえないとなっている。近年7～80万円の赤字となっている。 デマンド運行を相談のうえ導入した。それでも乗車率が上がらない。経営状態が悪くなっている。碁石地区だけでなく、市内一円で導入してはどうかと前市長に話をしていた。菊地市政でも市長肝入りとして取り組んでいきたい。</p>	<p>■企画政策部長 市としても大切に守っていきたくて考えている。金銭の面と担い手(運転手)の課題がある。そのため、事務の一本化ができないかと話をしていたところである。</p> <p>■市長 交通は絶対に無くしてはいけないと考えている。市内に交通空白地帯がある。デマンド運行の導入を進めているが、スピードアップして取り組んでまいりたい。</p>
3	<p>■防災士ネットワークについて 能登半島地震を経験した際に、津波警報が出て、碁石公民館に車40台程度が避難してきていたが、ほとんどが地区外の人であった。 碁石公民館の照明灯について整備が進んでいない。体育館も耐震補強ができていないので、車内で過ごされた方もいた。防災面でも含めて整備を進めてほしい。 北海道ではほとんどの公園で防災井戸が整備されていた。能登半島地震の際、碁石地区では飲料水の復旧に時間がかかった。氷見でも防災井戸を検討できないか。</p>	<p>■教育次長 照明灯については、担当課から詳細を確認させていただき、対応を考えたい。</p> <p>■防災危機管理監 備蓄倉庫にライトがある。防災井戸についてはこれから調べて広めてまいりたい。今年度は実験的に1箇所使ってみようとしている。碁石地区は防災訓練にも熱心で、防災グッズも揃えてくださっている。足りないものがあれば、申請していただきたい。</p>
4	<p>■不妊治療助成費用について 今までには一部の助成、令和7年度は全額助成ということか。 この点について発信していけば、氷見市で子育てしたい(人が増える)ということにもつながるのではないか。</p>	<p>■市民部長 今までには上限額を設けていたがそれを撤廃した。ただ、先進医療については際限がないので一部制限を設けている。医師の診断書の助成も行っている。</p> <p>■市長 これからも充実させてまいりたい。</p>

5	<p>■一次避難所について 地震、水害が起きた場合、碁石公民館が避難所となっている。道路が陥落した場合、避難できない。懸札会館で一次避難したいが備蓄資材がない。揃えてもらえないか。</p>	<p>■防災危機管理監 地区で決めていただいて、申し入れてもらえれば準備したい。数に限りもあるので相談していただきたい。</p>
6	<p>■健康で生きがいのあるまちづくりについて 健康で生きがいのあるまちづくりをもっと真剣に考えてほしい。生活習慣病を少しでも減らしてもらうことがまちづくりに重要だと思うがいかがか。</p>	<p>■市民部長 健康寿命の延伸ということで100歳体操の取り組みを行っている。住民健診向上の取り組みも行っており、引き続きご協力お願いしたい。</p> <p>■市長 県内でも元気な高齢者が多い市である。「eスポーツ」を活用した取り組みもしており、これからも高齢者の方がいきいきと暮らしていけるよう取組みを推進していく。</p>
7	<p>■人口増減について 地震の前と後でどうなっているのか詳しく説明してほしい。</p>	<p>■企画政策部長 発災後(1月)に市外への転出者は通常より1割程度増えていた。他の被災地と比べると市外転出よりも市内で暮らしている人が多い。ただ、人口減少も続いているので、いかに市内で住まいを確保していくか力を入れて取り組んでまいりたい。</p>
8	<p>■結婚・出産について ①価値観によって結婚されない方、晩婚となっている方が多いとのことだが、氷見市も他市においても「おせっかいさん」という制度が重要だと思う。実績と最近の動向について教えてほしい。 ②ぜひ若い女性を戻ってくるように取り組んでほしい。子供が生まれればみんな育てあっていければ良いが。</p>	<p>■企画政策部長 ①おせっかいさんが始まって10年経った。過去成婚した例もあったが、コロナを契機に若い人たちがマッチングアプリを利用して結婚する人たちが3割となっている。おせっかいさんの取り組みを続けるとともに若い人のニーズに沿った形で結婚の希望を叶えるような支援を行ってまいりたい。 ②市の人口構成を見ると、若い女性が10%程度少ない。そのため、若い女性が戻ってくる取組みを戦略で考えてまいりたい。</p> <p>■市長 年間150人しか生まれていない。なんとかしたいと思いつつ、様々な要因が絡み合っている。女性だけでなく男性に対しても支援を行っていきたい。</p>
9	<p>■イノシシ対策について 豚コレラも発生しているようだが、どのような対策があるか教えてほしい。</p>	<p>■産業振興部長 豚コレラも少し発生しており、県に報告している。対策をするには草刈りや電気柵の設置などが必要だが、人口減少により難しくなっており、維持管理が難しくなっている。対策を地域を広げて、行っていかなければならないと考えている。農林畜産課にご相談を。</p>